

平成 24 年度 自己点検・評価書

平成 25 年 3 月

佐賀大学

保健管理センター

I. 日常業務である保健管理センター活動について

平成 24 年度における保健管理センターの日常業務に関して、その活動報告および自己評価を行う。

<本庄キャンパス>

I. 平成 24 年度学生の健康管理実施状況

1. 学生健康診断他活動状況

本庄地区では、健康診断として、新入生健康診断、在学学生健康診断、留学生健康診断、スポーツ健康診断、R I 健康診断、感染対策として、小児感染症抗体検査、メンタルヘルスとして、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満学生支援、ブルガタ精査、健康診断証明書発行などの業務があります。

鍋島地区では、健康診断として、在学学生健康診断、大学院生健康診断、R I 健康診断、感染対策として、小児感染症対策（新入生）、B型肝炎ワクチン接種、ツベルクリン反抗検査、インフルエンザワクチン接種、メンタルサポートとして、カウンセラー面談、その他として健康診断証明書発行などの業務があります。

2. 定期健康診断：

新入生 1,237 名中 1,235 名 (99.8%) が定期健康診断を受けた。2 年生、それ以降の学生および大学院生を含めると、計 6,309 名中 5,337 名 (84.6%) が健康診断を受けていた。昨年度と比較して、受診率は 84.7%から 84.6%とほぼ同じ割合であった。

3. 健康診断結果

(1) 既往歴・現症または有所見者状況

新入生における既往歴では、気管支喘息 68 名、骨・関節疾患 37 名、アトピー性皮膚炎 20 名の順であった。また、新入生の現症または有所見者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、**やせ (BMI 18 未満) が 96 名**、肥満 (BMI 30 以上) が 28 名、アレルギー鼻炎 47 名、アトピー性皮膚炎が 31 名、心雑音・不整脈が 25 名、高血圧傾向が 21 名であった。

全学的にみると、既往歴では、気管支喘息 311 名、骨・関節疾患 125 名など、現症・有所見者では、やせ (BMI 18 以下) 451 名、肥満 (BMI 30 以上) 154 名、アレルギー性鼻炎 108 名の順であった。

(2) 健康診断の有所見者状況

本庄キャンパス全体をみると、胸部 X-P では、0.5%に有所見がみられ、血圧測定では、3.0%、尿検査では 3.7%、新入生の心電図では、10.6%に有所見がみられた。特に、留学生の尿所見において、有所見率が高かった (9.4%)。

(3) 心電図検査結果 (新入生・留学生) および血液検査 (留学生)

新入生の心電図の有所見者は、122 名。その検査結果では、ST-T 異常 39 名、不完全右脚ブロック 9 名、WPW 症候群 8 名、心室性期外収縮 7 名、洞性頻脈 7 名などであった。留学生は、日本人学生と比較

して、心電図異常は少なかった。

留学生の血液検査で異常を示す者では、前期では276名中31名に高脂血症、12名に肝機能障害、10名に高尿酸血症が認められた。後期では、高脂血症12名、肝機能障害9名、高尿酸血症および貧血5名の順であった。

4. スポーツ学生健康診断結果

対象者638名中524名(91.1%)の受診者があった。異常所見としては心電図検査で22名が該当したが、経過観察とした。医療機関に通院中の学生が20名いたが、スポーツを行う上で、大きな支障が生じることはなかった。今年度はマネージャーを含む**202名の学生にアルコールパッチテスト**を実施し、飲酒に対しての指導を行った。さらに、喫煙者は24名にみられた。

5. メンタルヘルス対策

(1) 心理面のスクリーニングを行うために、本年度は新入生、卒業予定学生(学部学生)および大学院生へ「一般健康調査票(CMHQ)」 「College Mental Health Questionnaire」を配布した。それぞれの結果のまとめを以下に提示する。

新入生の回収率は、1,219名中1,215名(99.7%)であり、昨年同様に高かった。CMHQのスコアが20点以上(ストレス過剰の可能性)の学生は169名(13.9%)であった。農学部の新入生の要面接率が他の学部より、かなり低かった。

卒業予定者の回収率は、1,597名中1,332名(83.4%)であった。要面接の学生は18.7%であった。

大学院生の回収率は、646名中519名(80.3%)であった。要面接の学生は13.3%であった。

半構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI)を施行し、DSM-IVに基づく精神の分類を行った結果、頻度の高い診断としては、大うつ病エピソード36名、社会恐怖24名、パニック障害11名、身体表現性障害9名、強迫性障害7名、などが認められた。

全般的にみると、ストレスの度合は、編入生33.3% > 卒業予定者(学部学生)18.7% > 新入生13.9% > 大学院生13.3% の順に高かった。

(2) カウンセリング状況

カウンセリング体制は、本庄5名、鍋島5名(医学部精神科・学校医を含む)で対応している。両キャンパスで、実数は295名、**延べ人数は968名**、病院紹介は94名であった。学生カウンセリングの相談内容は、精神衛生が222名と圧倒的に多く、学業、対人関係が19名の順であった。

(3) 学生支援部門との連携状況

平成23年7月より、導入された「キャンパスソーシャルワーカー」制度。教員との連絡がとれない学生、出席ができていない学生などに対して、積極的に連絡をとったり、自宅訪問するアウトリーチ型支援をおこなっている。相談依頼は、指導教員33件、保護者5件、その他3件であった。**のべ電話回数667回、のべメール送信数378回、のべ面接回数132回**であった。

附属病院では、精神神経科・学校医2名の協力を得て、附属病院を受診した形で、保健管理センター内でカウンセリングを受けている。

(4) 休・退学調査・障害学生状況

平成23年度の休学者は267名、退学者は136名、計**403**名。休学率が高いのは、大学院 7.6%、経済学部 4.7%の順であり、退学率が高いのは、大学院 4.1%、理工学部 2.4%の順であった。退学の理由は、再受験・進路再考、学業不振の順に多い。

障害学生については、平成24年は22名。肢体不自由11名、聴覚障害5名、心臓等の機能障害3名の順であった。

6. 感染症対策

麻疹の流行に伴う大学等の教育実習生の対する指導に基づき、当大学においても感染拡大・防止のための教育実習生等を対象に麻疹の罹患歴・麻疹ワクチン接種状況の問診と抗体検査を実施することとした。第1回の実施では**249名が検査を受け**、第2回の実施では**17名が検査を受けた**。抗体値が低い学生に対しては、個別に医療機関を紹介し、ワクチン接種を勧奨した。

7. 健康診断証明書発行状況

本年度から導入された自動発行機による発行件数は、2,485件、保健管理センターにおける発行件数は、5,717件、計8,202件であった。1年間を通じて、明らかに2、3月の発行が多いのは、就職エントリー用の診断証明書であった。

8. 保健管理センター利用状況（本庄）

保健管理センターの利用件数は7,984件（学生6,807件・職員1,177件）であった。本年度は昨年度と比較して、スポーツ健診において、身体計測等およびアルコールパッチテストなどの検査が増加したため、昨年より、約1400件の利用者が増加した。7,984件という利用件数は、本大学の保健管理センターが学生および職員の保健管理および治療において十分な役割を果たしていると考えられる。

<鍋島キャンパス>

【学生現状分析】

1. 定期健康診断

新入生166名中166名（100.0%）が定期健康診断を受けた。在学生は710名中692名（97.5%）であった。大学院生は社会人学生の割合も多く、208名中73名（35.1%）が受診した。

2. 新入生健康診断

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、アレルギー体質が8名、気管支喘息8名、やせ（BMI18.5%未満）が12名などであった。心電図検査結果では、ST-T異常が2名、WPW症候群2名などが認められた。

3. ワクチン接種状況

ムンプス・麻疹・風疹・水痘などの小児感染症については、延べ84名がワクチン接種対象となった。B型肝炎ワクチンは、医学科4年95名・看護学科2年の59名、計154名が接種を受け、149名が陽転した。陽転しなかった学生については、1月・2月に追加接種を行い、3月末に確認検査を行う。

インフルエンザワクチン接種は、11月に実習学生および国家試験対象学年を中心とした500名に接種

した。

4. 健康相談（メンタルヘルス支援）

新入生については、これまで同様に入学時健康診断のスクリーニング調査結果で、ポイントの高い学生11名および健康状態について確認が必要な学生3名を対象に実施した。H23年度から、医学科4、医学科2年、看護学科3年を対象に全員スクリーニング面接を実施した。

看護学科は、2年生1名が進路再考、4年生が精神疾患のため自主退学、2名が休学、1名留学するなど、看護学科学生も以前より休学・退学が増加した。医学科は2年生の留年が多く、スクリーニング面接は複数回呼出しても、来談しない学生もおり、100%実施できなかった。医学科4年生は全員面談実施し、留年生については、できる限り2回の面談を実施した。面談結果については、カウンセラーによる報告書作成し、教育委員会やチューター会議で報告を行った。

今年度は、医学科5年生については、実習中の目立った問題はなかった。看護学科3年生については、3名ほど短期の体調不良により実習を休むなど、対応が必要な学生が存在したが、完全なドロップアウトには至らなかった。

対応が難しい学生も多く、医学部精神神経科学学校医の協力を得て、8名の学生に述べ56回保健管理センターで診察が行われた。留年を繰り返す学生には、精神面・学業面での支援は不可欠で、精神科医と学生サービス課、チューター、および保護者と連携した支援ができるようになったことは評価できた。その反面、附属病院電子カルテのプライバシーへの配慮はこれからも課題となっている。

今後も、精神疾患・発達障害などの支援が必要な学生が増加することを予測し、協力し対応が必要と考えられる。

5. 健康診断証明書発行状況

今年度から、健康診断書の自動発行がスタートした。

4月～1月までに163通の健康診断証明書の自動発行利用があった。医学部の場合は、免疫の記録（小児感染症・B型肝炎ワクチン接種・ツベルクリン反応検査）と国家試験免許申請に関する診断書発行が多く、保健管理センターでの診断書発行は408件であった。

7. 保健管理センター利用状況

H24年度の1月末までの保健管理センターの利用件数は6353件（学生3,236件・職員3117件）であった。

【職員現状分析】

1. 健康診断

職員健診は、附属病院ということもあり、定期健康診断の100%受診を労基署より指導をされ、100%受診できている。しかし、要精密検査の再検査の未提出が多く、多忙な職務の中での健康管理が課題である。

2. 感染症対策

職員の感染症対策については、総務課・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。

ムンプス・麻疹・風疹・水痘などの小児感染症については、雇用時に全員対象に行い、抗体が不足し

ている職員述べ93名に追加接種を行った。(H24年度より同時接種を行った)

B型肝炎対策は、今年度から節目検査がスタートし、5年ごとに検査を行う職員にも対応し、251名にワクチン接種を行った。

ツベルクリン検査は、254名に実施した。H24年度は、附属病院内で結核が発生した場合は、H24年度は、QTFやTスポット検査に替わったため、H25年度からは、職員のツベルクリン反応検査は中止する予定である。

インフルエンザは、全職員を対象に実施した。委託職員なども含め1624名にワクチン接種を行った。

3. メンタルヘルス対策

鍋島職員には、全職員スクリーニングに加え、健康診断時に中災防ウエルネスチェックを行った。また、復職支援体制が充実し、定期的な産業医・産業保健スタッフの面談・支援により、休職者の減少につながったと考えられる。

職員が1600人と多く、人の出入りも多いため今後もメンタルヘルス支援の協力体制は重要である。

II 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員3名はそれぞれ講義および大学院生をもち、教育においても大学において貢献している。その具体的な内容を以下に示す。

本庄キャンパスに勤務する佐藤と木道については以下の通りである。

<本庄キャンパス>

I. 日常業務

健診業務及び一般健康相談：

定期健康診断・新入生健康診断・新入生健康調査・留学生健診・教職員健診・RI健診・スポーツ学生健康診断・学生および教職員の健康相談・留学生相談/心理相談(学生・教職員)・新型インフルエンザ対策・麻疹抗体検査など。

II. 教育および研究

1. 講義

学内： 木道圭子：

健康科学講義・後期(対象：経済、理工1年生)

運動処方(中山正教・木道圭子)：2年生前学期受講、

トレーニング理論・実習(池上寿伸・木道圭子)：1年生前学期受講、

運動学(池上寿伸・木道圭子)：3年生前学期受講

(対象：文化教育学部 健康福祉スポーツ選修、体育教育選修)

佐藤 武：

健康科学・前期

理工学部（機能物質科学）フレッシュマンセミナー

医学部・精神医学（コンサルテーション・リエゾン精神医学）

農学部 「メンタルヘルス」

医学部医科学専攻・修士課程・精神心理学特論

医学部医科学専攻・博士課程・健康スポーツ学特論「ストレスと運動」

学外（佐藤）： 放送大学（専門科目：心理と教育 | こころアレルギー）

日本赤十字九州国際看護大学（統合失調症と妄想性障害、気分感情障害、人格障害・薬物依存・てんかん、脳機能と薬物療法）

西九州大学：死生学（1回の講義）

2. 大学院生等指導

大学院医学系研究科博士課程医科学専攻4年生 楊 春燕（学位取得・卒業）

大学院医学系研究科博士課程医科学専攻3年生 濱田維子

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻1年生 柴 佳宝

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻1年生 中村志織

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻1年生 竹岸智子

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻入学予定 花房喜代治

Ⅲ 研究に関する状況と自己評価

研究に関しては、本来の業務に追われて、十分な研究が行われているとはいえないものの、研究報告および学会発表は、ある程度の業績を提出していると自負している。以下に、研究報告および学会発表の内容を提示する。

<本庄キャンパス(佐藤・木道)>

研究報告

[著書・総説]

1. Nagamatsu M, Yano K, Sato T: Adolescent health, public health responses, and sex education program in Japan. International Handbook of Adolescent Pregnancy: Medical, Psychosocial, and Public Health, Springer Publishing Company in NYC (in press, 2012)

[研究・症例報告]

1. Miyuki Nagamatsu, Niwako Yamawaki, Takeshi Sato, Aki Nakagawa, Hisako Saito: Factors influencing attitudes to sexual activity among early adolescents in Japan. *Journal of Early Adolescent* 33: 267-288, 2013..
2. Miyuki Nagamatsu, Takeshi Sato, Aki Nakagawa, Hisako Saito: Family, school, and social factors associated with sexual experience and attitudes toward sexual intercourse among Japanese adolescents aged 14 to 15 years. *Adolescentology* 30 (3): 297 - 304. 2012.
3. Yang C, Yamawaki N, Miyata M, Sato T: Prevalence and risk factors of Internet addiction: A cross-National comparison between Japanese and Chinese freshmen. *Transcultural Psychiatry* (in press)
4. Yamawaki N, Sato T: Beliefs about causes of and risk factors for mental disorders: A comparison of Japanese and American college students. *Transcultural Psychiatry* (under reviewer assignment)
5. Yamawaki N, Sato T: Beliefs about causes of and risk factors for mental disorders: A comparison of Japanese and American college students. 第33回全国大学メンタルヘルス研究会報告書, pp. 16-23, 2012.
6. 佐藤 武: なぜ日本人大学生は自信がないのかー諸外国との比較ー. *こころの健康* 27:2-7, 2012.
7. 永松美雪、佐藤 武、中川亜樹、斉藤久子: 性行動に伴う危険を予防するプログラムの効果: 性感染症予防教育に男女がお互いを尊重する関係を育成する教育を組み合わせる. *思春期学* 30:365-376, 2012.
8. 花田陽子、岩本利恵、島ノ江千里、佐藤 武、新地浩一: 佐賀大学におけるキャンパス・ソーシャルワーカー制度～制度導入から現在までの実績と評価～. 第33回全国大学メンタルヘルス研究会報告書, pp. 30-33, 2012.

〔学会発表〕

1. 柴佳宝、楊春燕、宮田正和、佐藤 武: Prevalence and risk factors of Internet addiction: A cross-National comparison between Japanese and Chinese freshmen 第34回全国大学メンタルヘルス研究会、平成24年11月8日-9日、北海道.
2. 安宅勝弘、影山任佐、齋藤憲司、佐藤 武、粥川裕平: 大学院における休学・退学・留年学生に関する調査ー平成22年度調査結果を中心に. 第34回全国大学メンタルヘルス研究会、平成24年11月8日-9日、北海道.
3. 柴佳宝、佐藤武: エアロビクスによる身体変化ー身体各部の計測結果からー. 第30回日本肥満症治療学会学術集会、平成24年6月29-30日、東京.

〔その他〕

1. 佐藤 武: 診察室から「元サイコオンコロジストが、がん患者へー50歳までに人間ドックを。佐賀新聞: 平成24年9月15日号。
2. 佐藤 武: 診察室から「うつ病にならないための工夫とは? 会話、日光浴、運動、食事が重要」。佐賀新聞: 平成24年9月29日号。
3. 佐藤 武: 診察室から「コンピューターゲームの弊害ー相手の空気を読めますか?」佐賀新聞: 平成24年10月20日号。

4. 佐藤 武：診察室から「アノミー現象と大震災の関係一年間3万人を下回るかも」佐賀新聞：平成24年11月17日号。
5. 佐藤 武：診察室から「お腹の脂肪にご注意！単なるかたまりではない」佐賀新聞：平成24年12月15日号。
6. 佐藤 武：診察室から「こころの掃除も大切！電話で気軽に相談を」佐賀新聞：平成24年12月29日号。
7. 佐藤 武：診察室から「時計遺伝子の発見ー生活リズムの乱れは万病のもとー」佐賀新聞：平成25年1月26日号。
8. 佐藤 武：診察室から「こころアレルギーの提唱ー人間関係免疫不全症候群ー」佐賀新聞：平成25年2月23日号。
9. 佐藤 武：相手の空気読めますか？コンピューター・ゲームの弊害. 子どもとメディア 22:December, pp. 2, 2012.
10. 佐藤 武：ハラスメントの表と裏. 被害者支援ネットワーク佐賀VOISS会報. 13:1, 2012.
11. 佐藤 武：人に言えない悩み、抱えていませんか？共済メイト 118:2-7, 2012.
12. 佐藤 武：うつ病を知る. 佐賀新聞 フィット：平成25年2月15日号 pp2-5.
13. 佐藤 武：就活の悩み打ち明けて. 読売新聞：平成24年5月17日号。
14. 佐藤 武：ストレス解消のコツなど講演. 佐賀新聞：平成25年1月25日号。
15. 佐藤 武：パニック障害. Pfizer Professional、プライマリ・ケア医のためのWeb 講座, 2013.

IV. 科学研究費補助金など

1. 木道圭子：平成24年度挑戦的萌芽研究 「非侵襲的検査によるBrugada型心電図の予後予知」
2. 木道圭子：平成24年度教育プロジェクト支援経費「学生の健康面の問題についての医療的支援（禁煙サポート、肥満学生への医療的アプローチ）」
3. 佐藤 武：総務省：サガン鳥栖健康増進プログラム推進事業（サガン鳥栖健康増進プログラム地域協議会会長：佐藤 武）（予算は2010年度より、事業は5年間）。

鍋島キャンパス（尾崎）：

著書

水田敏彦、江口有一郎、河口康典、高橋宏和、尾崎岩太。肝疾患における糖代謝異常と内臓脂肪蓄積の重要性 肝臓フォーラム ‘11 記録集（編集：戸田剛太郎、沖田極）p169-182, 2012 医事出版社

原著論文

Xia J, Matsushashi S, Hmajima H, Iwane S, Takahashi H, Eguchi Y, Mizuta T, Fujimoto K, Ozaki I. The roles of PKC isoforms in the inhibition of NF- κ B activation by vitamin K2 in human hepatocellular carcinoma cells. J Nutr Biochem 2012; 23: 1668-1675.

Oeda S, Mizuta T, Isoda H, Kuwashiro T, Oza N, Iwane S, Takahashi H, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Toda S, Ozaki I, Anzai K, Fujimoto K. Efficacy of pegylated interferon plus ribavirin in combination with corticosteroid for two cases of combined hepatitis C and autoimmune hepatitis. J Clin Gastroenterol 2012; 5: 141-145.

堀江弘子、江口有一郎、中村隆典、水田敏彦、桑代卓也、岩本英里、古賀さやか、田代貴也、富永智香子、黒木茂高、小野尚文、木下淳、本多義昭、駒田富佐夫、尾崎岩太、安西慶三、藤本一眞、江口尚久。肝炎ウイルス検査受診率向上には医療者による個別の意義の説明が有効である。肝臓 2012; 53(10): 591-601.

学会発表等

Iwane S, Okada M, Isoda H, Nakashita S, Takahashi H, Eguchi Y, Ozaki I, Mizuta T. Lower levels of insulin resistance influence antiviral effect of peginterferon plus ribavirin in chronic hepatitis C virus (genotype 1) infection. The 22nd Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL2012) 2012. 2. 16-19 PROGRAM p109 (PP13-033)

Kawaguchi Y, Mizuta T, Eguchi Y, Kohira T, Kamachi S, Kuwashiro T, Oeda S, Nakashita S, Iwane S, Ide Y, Ozaki I. Mean Accordion Index and Whole-body Insulin Sensitivity Index are highly specific predictive markers for SVR to peginterferon plus ribavirin therapy in HCV-infected patients with genotype 1b and high viral load. The 10th JSH Single Topic Conference -Hepatitis C: Best Practice Based on Science- 2012. 11. 21-11. 22

Kawazoe S, Murayama K, Araki N, Akiyama T, Otsuka T, Fujimoto M, Ozaki I, Mizuta T. Comparison of transarterial chemoembolization therapy using epirubicin, cisplatin, and miriplatin for treatment of hepatocellular carcinoma: a propensity score analysis. 6th ILCA Annual Conference 2012. 9. 14-16 Final program & Book of Abstracts, p84 (P-205), 2012

Takahashi H, Mizuta T, Eguchi Y, Iwane S, Kohira T, Isoda H, Okada M, Nakashita S, Ozaki I, Anzai K. Serum derivatives of reactive oxidative metabolites as a predictor of viral relapse after interferon therapy for chronic hepatitis C. AASLD 63rd The Liver Meeting 2012. 2012. 11. 9-11. 13 Hepatology 56 (4) Suppl. 691A (#1034), 2012

Takahashi H, Mizuta T, Eguchi Y, Iwane S, Nakashita S, Isoda H, Kohira T, Ozaki I, Anzai K. Histological steatohepatitis-like change in patients with persistent alanine aminotransferase elevation during pegylated interferon therapy for chronic hepatitis C. AASLD 63rd The Liver Meeting 2012. 2012. 11. 9-11. 13 Hepatology 56 (4) Suppl. 692A (#1036), 2012

Xia J, Matsushashi S, Hamajima H, Iwane S, Takahashi H, Mizuta T, Fujimoto K, Anzai K, Ozaki I. Vitamin K2 suppresses NF- κ B activation by inhibiting PKC signaling pathways in human

hepatocellular carcinoma cells. The 5th International Symposium for Future Technology Creating Better Human Health and Society 2012. 3. 15-16 Program p62 (P-1)

磯田広史、岡田倫明、中下俊哉、高橋宏和、岩根紳治、江口有一郎、水田敏彦、尾崎岩太、安西慶三、藤本一眞. 持続血糖測定装置 (CGMS) を用いた肝硬変の糖代謝異常への LES の効果の検討 第 48 回日本肝臓学会総会 2012. 6. 7-8(金沢) 肝臓 2012;53 suppl(1):A335(OWS-272).

岩根紳治、岡田倫明、磯田広史、中下俊哉、高橋宏和、河口康典、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦 インスリン抵抗性を指標とした PEG-IFN+RBV の 2 剤併用で治癒できる難治性 C 型慢性肝炎症例の抽出 第 16 回日本肝臓学会大会 2012. 10. 10-11(神戸) 肝臓 2012 ; 53 Suppl(2): A690(肝 P-58).

岩根紳治、水田敏彦、岡田倫明、磯田広史、中下俊哉、高橋宏和、江口有一郎、尾崎岩太、安西慶三 インスリン抵抗性を指標とした PEG-IFN+RBV の 2 剤併用で治癒可能な難治性 C 型慢性肝炎の選別 第 48 回日本肝臓学会総会 2012. 6. 7-8 (金沢) 肝臓 2012 ; 53 supplement(1):A359(OWS-319).

江口尚子、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦、安西慶三、藤本一眞、宮崎耕治 大学病院の非専門診療科のスクリーニング検査で判明した「HCV 抗体陽性」患者のマネジメントの現状 第 48 回日本肝臓学会総会 2012. 6. 7-8(金沢) 肝臓 2012 ; 53 supplement(1):A525(OWS-284), 2012

尾崎岩太、武富野弥栄子、古川早苗、岩本幸子、福島雅子、木道圭子、佐藤武、市場正良. 大学医学部における職場のストレス：職業性ストレス簡易調査からみえる実態. 第 50 回全国大学保健管理研究集会 2012. 10. 17-18 (神戸) Campus Health 2012: 49(4); 117(L9).

尾崎岩太、夏京合、松橋幸子、斉ジンヤン、岩根紳治、高橋宏和、江口有一郎、水田敏彦 肝細胞癌での NF- κ B 活性化における protein kinase C isoform の役割 第 48 回日本肝臓学会総会 2012. 6. 7-8 (金沢) 肝臓 2012; 53 supplement(1):A231(OWS-63).

河口康典、水田敏彦、江口有一郎、岡田倫明、磯田広史、中下俊哉、高橋宏和、岩根紳治、尾崎岩太 C 型慢性肝炎患者における全身のインスリン抵抗性は血清 AFP 値に関与する 第 54 回日本消化器病学会大会 2012. 10. 10-13(神戸) 日本消化器病学会雑誌 2012;109 Suppl: A704(消 P-19).

中下俊哉、岡田倫明、磯田広史、岩根紳治、高橋宏和、大塚大河、江口有一郎、川添聖治、尾崎岩太、水田敏彦 高齢者肝癌に対する sorafenib 療法の安全性および有用性 第 98 回日本消化器病学会総会 2012. 4. 19-21(東京) 日本消化器病学会雑誌 2012;109 supplement: A258 (0-163).

中下俊哉、岡田倫明、磯田広史、高橋宏和、岩根紳治、大塚大河、江口有一郎、川添聖治、尾崎岩太、水田敏彦 肝細胞癌に対するソラフェニブ療法とリザーバー動注療法(New FP療法)に関する比較検討 第 54 回日本消化器病学会大会 2012. 10. 10-13(神戸) 日本消化器病学会雑誌 2012;109 Suppl: A718(消 P-75).

浜島弘史、尾崎岩太、夏京合、桑代卓也、斉靖言、水田敏彦、安西慶三、松橋幸子 肝癌細胞におけるがん抑制遺伝子、PDCD4の発現調節：PDCD4蛋白質分解の調節 第35回日本分子生物学会年会 2012.12.11-14 (福岡) プログラム 1P-0367.

Xia JingHe、尾崎岩太、松橋幸子、斉靖言、岩根紳治、高橋宏和、江口有一郎、水田敏彦、安西慶三 Vitamin K2 inhibits HIF-1 α activity by suppressing PKC- δ in normoxic but not hypoxic level in hepatocellular carcinoma cells. 第35回日本分子生物学会年会 2012.12.11-14 (福岡) プログラム 4P-0283.

泉夏美、水田敏彦、尾崎岩太、江口有一郎、宮崎耕治 肝炎治療推進の阻害要因とは？～佐賀大学肝臓相談センターの相談事例から～ 日本医療マネジメント学会第10回佐賀支部学術集会 2012.2.4 (佐賀) 抄録集：48.

磯田広史、高橋宏和、岩根紳治、水田敏彦、尾崎岩太、安西慶三、藤本一眞 C型慢性肝炎に対しPEG-IFN+Rib併用療法中にANCA関連血管炎を発症した1例 第99回日本消化器病学会九州支部例会 2012.6.29-30 (佐賀) プログラム・抄録集：98(086).

井手康史、河口康典、岡田倫明、小平俊一、蒲池紗央里、桑代卓也、大枝敏、中下俊哉、岩根紳治、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦 C型慢性肝炎に対するIFN治療効果にはインスリン抵抗性、内臓脂肪蓄積、骨格筋脂肪化が関連する 第99回日本消化器病学会九州支部例会 2012.6.29-30 (佐賀) プログラム・抄録集：102 (W1-05) .

江口有一郎、尾崎岩太、河口康典、江口尚子、水田敏彦、安西慶三、藤本一眞、宮崎耕治 肝がん死亡率日本一の汚名返上のための肝疾患センターの取り組み-ヒューマンネットワークによる地域ぐるみの連携システム- 第99回日本消化器病学会九州支部例会 2012.6.29-30 (佐賀) プログラム・抄録集：109(専09).

小平俊一、高橋宏和、中下俊哉、磯田広史、岩根紳治、水田敏彦、尾崎岩太、江口有一郎、安西慶三 甲状腺機能亢進症に慢性肝障害を合併した1例 第99回日本消化器病学会九州支部例会 2012.6.29-30 (佐賀) プログラム・抄録集：97(081).

武富弥栄子、岩本幸子、福島雅子、永渕久子、木道圭子、尾崎岩太、佐藤 武. 医学部女子学生のOC服用実態調査. 第42回九州地区大学保健管理協議会 2012.8.22~24(福岡).

辻千賀、岩根紳治、蒲池紗央里、小平俊一、中下俊哉、長友大輔、井手康史、河口康典、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦 テラプレビルによる3剤併用療法中に心タンポナーデを来したC型慢性肝炎の1例 第100回日本消化器病学会九州支部例会 2012.11.2-3 (鹿児島) プログラム・抄録集：158 (研14) .

山口彩絵、中下俊哉、小平俊一、蒲池紗央里、岩根紳治、井手康史、河口康典、藤田愛、野口光代、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦 卵巣腫瘍加療中に発症した肝炎症性偽腫瘍の1例 第100回日本消化器

病学会九州支部例会 2012. 11. 2-3
(鹿児島) プログラム・抄録集 : 155 (研 02) .

中下俊哉、岡田倫明、磯田広史、岩根紳治、高橋宏和、江口有一郎、尾崎岩太、水田敏彦 肝細胞癌に対するソラフェニブ療法とリザーバー動注療法 (New FP 療法) の治療効果に関する比較検討 第 48 回日本肝癌研究会 2012. 720-21 (金沢) プログラム・抄録集 P122: 205.

尾崎岩太、夏京合、松橋幸子、齊婧言、岩根紳治、高橋宏和、水田敏彦. Vitamin K2 の NF- κ B 活性化抑制過程における protein kinase C isoform の役割. 第 15 回 Vitamin K & Aging 研究会 2012. 2. 18. 経団連会館 (東京) 抄録集 P12.

講義等

尾崎岩太. 実習の安全管理 : 感染予防を中心に. 医学科 4 年 臨床入門. 2012. 1. 23

尾崎岩太. 医学生健康管理. 医学科 3 年 地域医療 Unit 1 PBL 講義. 2011. 4. 21.

尾崎岩太. 主題科目 ニュートリション&フィットネス講義. 医学部 1 年. 2012. 5. 11, 2012. 10. 31

PBL チューター

Unit2 消化器 医学科 3 年 2010. 5. 22&25, 2010. 6. 12&15

大学院生等受け入れ指導

佐賀大学医学部客員研究員 夏 京合

社会人大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 2 年 桑代卓也

佐賀大学大学院医学系研究科修士課程 1 年 齊 婧言

IV 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、地域の方々から、講演を依頼されることが多々ある。時間の許す範囲で、できるだけ、フィジカルおよびメンタルに関する社会連携・貢献を果たしている。その内容を以下に列記する。

本庄キャンパス (佐藤・木道) :

講演

1. 木道圭子 : 生活習慣病について 佐賀県警職員研修会 平成 24 年 7 月 2 日 佐賀県警察本部第 1 会議室.

2. 木道圭子：生活習慣病について 佐賀県警職員ライフサイクル・健康教室 40 平成 24 年 9 月 24 日
佐賀県警察本部第 1 会議室.
3. 木道圭子：生活習慣病について 佐賀県警職員ライフサイクル・健康教室 30 平成 24 年 10 月 3 日
佐賀県警察本部第 1 会議室.
4. 木道圭子：生活習慣病について 佐賀大学 中堅職員ステップアップ研修 平成 24 年 11 月 26 日
菱の実会館.
5. 佐藤 武：人との接し方. 佐賀大学新入生アドバイザー研修会、佐賀大学、平成 24 年 4 月 3 日、佐賀.
6. 佐藤 武：新入生のメンタルヘルス予防. 佐賀大学農学部、佐賀大学、平成 24 年 4 月 23 日、佐賀.
7. 佐藤 武：大学生生活から有意義に過ごすには. 佐賀大学工学系研究会「フレッシュマンセミナー」、平成 24 年 5 月 20 日、佐賀.
8. 佐藤 武：心電図の読み方とマラソン中の仕事. アミノバリューホノルルマラソン、平成 24 年 5 月 5 日、佐賀.
9. 佐藤 武：健康とメンタルヘルス. 農学部講演、平成 24 年 5 月 19 日、佐賀.
10. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス～中高年に忍び寄る「うつ病」問題～. 平成 24 年度佐賀大学中堅職員研修、平成 24 年 6 月 11 日、佐賀.
11. 佐藤 武：現代の高校生のメンタルヘルス～佐賀大学 心理相談の経験から. 県立佐賀北高校、平成 24 年 6 月 25 日、佐賀.
12. 佐藤 武：大学におけるメンタルヘルス. 平成 24 年度佐賀県教育関係職員メンタルヘルス対策検討委員会、平成 24 年 7 月 26 日、佐賀.
13. 佐藤 武：中高年のメンタルヘルス. いのちの電話、平成 24 年 8 月 1 日、佐賀.
14. 佐藤 武：中高年のメンタルヘルス. いのちの電話、平成 24 年 8 月 11 日、佐賀.
15. 佐藤 武：精神の発達とその課題－発達障害やうつ病の心理相談から－. 教員免許状更新講座、佐賀大学医学部、平成 24 年 8 月 23 日、佐賀.
16. 佐藤 武：ロハス主義. 平成 24 年度九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅技術職員研修、佐賀大学、平成 24 年 8 月 29 日、佐賀.
17. 佐藤 武：学生等の飲酒行動の状況と今後の予防策. 平成 24 年度 学生生活にかかわるリスクの把握と対策に関するセミナー. 平成 24 年 10 月 25 日、国立オリンピック記念青少年総合センター、東京.
18. 佐藤 武：新人看護職員臨床研修に関わる看護者のメンタルサポート. 平成 24 年新人看護職研修責任者研修、佐賀県看護協会、平成 24 年 11 月 1 日、佐賀.
19. 佐藤 武：新人看護職員臨床研修に関わる看護者のメンタルサポート. 平成 24 年新人看護職研修責任者研修、佐賀県看護協会、平成 24 年 11 月 6 日、佐賀.
20. 佐藤 武：症例検討会. 家庭裁判所調査官自庁研修、佐賀家庭裁判所、平成 24 年 12 月 5 日、佐賀.
21. 佐藤 武：エアロビクスによる身体変化－身体各部の計測結果から－. 佐賀県医師会「歩こう会」、佐賀県医師会、平成 24 年 11 月 18 日、柳川.
22. 佐藤 武：なぜ日本人大学生は自信がないのか－諸外国との比較－、大分大学FD講習会、平成 24 年 11 月 28 日、大分.
23. 佐藤 武：ストレス・マネジメント. 佐賀県看護協会セカンドレベル看護研修、平成 24 年 12 月 1 日、佐賀.

24. 佐藤 武：産業医の立場によるラインによるケアー労働安全衛生法一. 佐賀県医療センター好生館、平成 24 年 12 月 4 日、佐賀.
25. 佐藤 武：うつ病. いのちの電話、アバンセ、平成 24 年 12 月 5 日、佐賀.
26. 佐藤 武：教職員のストレス. 教職員 10 年経験者研修、佐賀県教育センター、平成 24 年 12 月 27 日、佐賀（大和）.
27. 佐藤 武：うつ病. いのちの電話、メートプラザ、平成 25 年 1 月 12 日、佐賀.
28. 佐藤 武：佐賀大学医学部における医学生と看護学生のメンタルヘルス. 「人間力育成プラン」教員研修会. 平成 25 年 1 月 9 日、産業医科大学、北九州.
29. 佐藤 武：仕事と家庭のバランスー産業メンタルヘルスの立場からー. 平成 25 年度 佐賀県における産学官包括連携協定 講演、佐賀県商工会館、佐賀.
30. 佐藤 武：こころアレルギーの提唱ー人間関係免疫不全症候群ー. 留年・休学学生とどうつながるか？（筑波大学精神医学グループ・保健管理センター）、つくば国際会議場、平成 25 年 2 月 16 日、筑波大学.
31. 佐藤 武：うつ病とレクサプロの使用経験. 持田製薬社員教育研修、東横イン佐賀、平成 25 年 2 月 26 日、佐賀.
32. 佐藤 武：教育現場における自殺予防対策について. 有明高等工業専門学校、平成 25 年 3 月 13 日、大牟田（福岡）.

市民活動

1. 佐藤 武、石丸よし子、柴 佳宝：「メタボ・うつ・ロコモ解消！パーフェクトボディ」（3ヶ月コース）. 佐賀新聞文化セミナー（平成 24 年 4 月 1 日～同年 6 月 30 日）、佐賀.
2. 佐藤 武、石丸よし子、柴 佳宝：「メタボ・うつ・ロコモ解消！パーフェクトボディ」（3ヶ月コース）. 佐賀新聞文化セミナー（平成 24 年 7 月 1 日～同年 9 月 30 日）、佐賀.
3. 佐藤 武、石丸よし子、柴 佳宝：「メタボ・うつ・ロコモ解消！パーフェクトボディ」（3ヶ月コース）. 佐賀新聞文化セミナー（平成 24 年 10 月 1 日～同年 12 月 31 日）、佐賀.
4. 佐藤 武、RIE、柴 佳宝：「ファンタスティック・エアロビクス」（3か月コース）佐賀新聞文化センター（平成 25 年 1 月 1 日～同年 3 月 31 日）

鍋島キャンパス（尾崎）：

1. 尾崎岩太. 佐賀県の肝疾患の現状. 佐賀県肝癌撲滅フォーラム世話人会 2012. 1. 17 ホテルマリタール創世（佐賀市）
2. 尾崎岩太. 佐賀県における肝炎助成制度によるインターフェロン治療の現状. 佐賀県医師会肝癌部会研修会 2012. 1. 27 佐賀県医師会成人病予防センター（佐賀市）
3. 尾崎岩太. 佐賀県の肝疾患の現状. 佐賀県肝炎コーディネーター養成研修会. 2012. 11. 28; 11. 30; 12. 5 佐賀大学肝疾患センター（佐賀市）

この領域も日々の多忙な業務の中、地域の要請にできるだけ答えるように努力し、その成果は得られていると思われる。

V. 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

佐賀大学における学内の各種委員会に積極的に参加し、学内の学生および教職の問題点に保健管理センターとして、意見を述べている。それぞれの教員の参加している委員会を列記する。

佐藤 武：

〔学内〕

保健管理センター運営委員会（委員長）・労働安全衛生委員会（委員長）・学生モニター会議委員・入試委員会・学生委員会（オブザーバー）・大学教育委員会（オブザーバー）・教育室会議委員・遺伝子組換え実験安全委員会・医学部研究科委員会・産業医・附属中学校保健委員・附属特別支援学校保健委員・施設協議会委員

〔学外〕

全国大学保健管理研究協議会理事（メンタルヘルス委員会委員長）・全国大学メンタルヘルス研究会事務局長・日本精神衛生学会理事・九州地区大学メンタルヘルス研究協議会運営委員、全国大学保健管理協会評議員・日本総合病院精神医学会評議員・日本サイコオンコロジー学会世話人・九州地区大学保健管理研究協議会評議員・九州精神神経学会評議員など。

〔査読委員〕

「総合病院精神医学雑誌」「INFORMATION An International interdisciplinary Journal」「Asian-Information-Science-Life」「精神神経学雑誌」「日本ペインクリニック学会誌」「九州神経精神医学」など。

木道 圭子：

〔学内〕

保健管理センター運営委員会（委員）・本庄地区労働安全衛生委員会（委員、産業医）・本庄地区産業医・ハラスメント相談員

尾崎岩太：

〔学内〕

佐賀大学安全衛生管理委員会・佐賀大学医学部安全衛生委員会・佐賀大学医学部教育委員会（オブザーバー）・佐賀大学動物実験委員会・佐賀大学医学部附属病院放射線障害防止委員会・佐賀大学医学部及び附属病院エコアクション 21 委員会・佐賀大学医学部附属病院社会保険委員会・佐賀大学医学部附属病院感制御部会議・佐賀大学ハラスメント相談員・佐賀大学鍋島事業場産業医

〔学外〕

佐賀県肝疾患対策委員会（委員長）
佐賀県肝炎治療助成費認定協議会
佐賀県国民健康保険診療報酬審査委員会

〔査読委員〕

Hepatology Research
Cancer Letters
Oncogene
J Nutritional Biochemistry
J Translational Medicine
PLoSone

この領域においても、各種委員会に可能な限り出席しており、十分な役割を果たしているといえる。

佐賀大学保健管理センター外部評価 評価調査票
 (平成24年度実績に対する評価)

委員名：田端 正明

項番	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	学生支援の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	7000名の学生の健康管理を健康診断、メンタルヘルス対策、感染症対策など多数の活動により、保健管理センターの役割を十分果たされていると思います。学生が学業を続ける上で、精神面でのサポートは欠かせないので、キャンパスソーシャルワーカー制度による学生支援は素晴らしいと思います。カウンセリングは本庄地区と鍋島地区並びに病院との協力の下で実施されているので、精神衛生面での相談に十分に対応し、原因究明と解決に寄与されることを期待しています。
2	教職員支援の領域	<input type="checkbox"/> 十分良い <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	健康診断、感染症対策、メンタルヘルス対策、復職支援状況など多く活動をなされています。資料6、23ページ以降を見ると、中災防ウエルネスチェックで要配慮者数は鍋島地区が多く、精神衛生上の相談件数が多いので、その対策を大学として考える必要はないだろうか。それについての記述して欲しかった。 教職員の健康管理とその対策は十分なされていると思いますが、データーについての考察は十分でないようです。鍋島地区は職員の現状分析がなされていますが、本庄地区の現状分析の記載がありませんので、課題や対策を知ることができませんでした。

3	教育の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>多忙なセンター業務の中で講義を十分しておられる。小さいことですが、セミナーはオムニバスと思います。週 15 コマ以外の講義やセミナーは時間数を明確に書いて欲しい。また、学外の講義は社会活動として取り扱った方が良いのでは。</p>
4	研究の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>学会発表、論文発表など十分である。できれば、科研費の採択を挙げて欲しい。採択された研究課題の研究代表か分担か分かりにくい。大学院生受け入れ指導では教員名を明記した方が良い。</p>
5	国際交流・社会貢献の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>学外での講演は十分と思う。多数回、学外で講演をしておられるので、勤務時間形態に支障がないだろうか。</p>

6	組織運営の領域	<input type="checkbox"/> 十分良い <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>学内での組織運営にかかわっておられるので、センターとしての活動は十分と考える。学外組織の活動、査読などは国際交流及び社会連携・貢献に該当すると思う。</p> <p>運営委員会資料からは学生、教職員の健康管理に関する種々の問題点が浮かび上がるはずである。その把握と対策についてどう対処したかをまとめて示して欲しかった。</p>
7	施設の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>消防用施設の点検や医療廃棄物の処理は十分なされており、廃棄物のマニフェストも保管されている。</p> <p>安全管理、院内感染対策などに関する研修に積極的に参加され、その管理・対策に努めておられる。</p>

佐賀大学保健管理センター外部評価 評価調査票
 (平成24年度実績に対する評価)

委員名：江藤 敏治

項番	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	学生支援の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>学生健康診断受診率 84.6%、スポーツ健康診断受診率 91.1%と、ともに高率であり評価できる結果である。</p> <p>健康相談、メンタルヘルス相談件数も年間 2800 件と多く、平成 23 年度から導入されたキャンパスソーシャルワーカーも有効に機能していると評価できる。</p> <p>健康診断結果自動発行機の導入も保健管理センタースタッフの業務軽減につながり、きめ細かい学生へのケアが可能となった要因と考えられた。また、学生への感染症対策も十分行っていると評価できる。</p> <p>また、全国平均レベルであるものの休学者 267 名、退学者 136 名と多い印象を受ける。更なる学生へのケアと保健管理センターへのつなぎの工夫が必要と考えられる。そういう意味においても平成 23 年度に導入されたキャンパスソーシャルワーカーシステムが学生、教職員間に浸透していくことを期待したい。</p>
2	教職員支援の領域	<input type="checkbox"/> 十分良い <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>日常業務としての各種健康相談件数も年間 1525 件と多く、休職した職員への復職支援や職員研修講演実施など大学保健管理センターとして十分機能を発揮していると考えられる。</p> <p>職員定期健康診断の受診率も 96.7%ととても高く評価できる。しかしながら、精密検査報告書提出ならびに健康診断事後指導実施率が低く職員への今後更なる啓発活動が必要と考えられた。</p>

3	教育の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>通年講義の「健康科学」をはじめ文化教育学部、農学部、理工学部、医学部など、すべての学部学生への講義を担当するなど、大学保健管理センター教員として学生への健康教育貢献度は高いと考えられる。さらに大学院における大学院生研究指導など教育領域において十分評価できる。</p>
4	研究の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>大学保健管理センター教員として日常業務の傍ら他学部教員と同様な研究成果をあげていくことは非常に困難である。その中において、学会発表と研究論文報告数も多く十分評価できる。科学研究費補助金を獲得していることも評価される。</p>
5	国際交流・社会貢献の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>地域の求めに応じた講演会や各種委員会委員、佐賀県の受託研究である肝臓疾患研究など大学保健管理センター教員としての社会貢献は十分評価できる。同時に留学生への健康相談と各種相談も国際交流領域において貢献していると考えられる。</p>

6	組織運営の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>健康診断立案などの保健管理業務の企画ならびに運営は円滑に遂行されている。また、健診データや健康相談情報については鍵付き保管庫に収納するなど安全管理が適切に行われている。</p> <p>大学における各種委員会にも委員およびオブザーバーとして参加するなど、保健管理センター教員として大学に十分貢献していると考えられる。</p>
7	施設の領域	<input type="checkbox"/> 十分良い <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>(平成 24・25 年度共通)</p> <p>保健管理センターカウンターはオープンカウンター方式で学生も相談に訪れやすい雰囲気であった。相談室のプライバシーも保たれるように個室となり、来訪者に対し十分配慮されていると感じられた。</p> <p>日常診療施設も足浴設備も配備され学生ケアに十分な設備であった。また、薬品保管についても劇物などは鍵付き保管室への配置が行われ、薬品在庫管理も毎月行われるなど適切に管理されていた。</p> <p>改善すべき点として、保健管理センターカウンターに医師勤務予定表は掲載されているものの、カウンセラーの勤務予定表が掲載されておらず学生・教職員への配慮が不足していると考えられた。また、消火器周囲の整理と内開きドア周囲の本棚などの転倒防止のための固定が不十分な個所が認められた。</p>